



創立70周年「つづく つながる 夢を育てる学び舎」

国立二小だより

令和2年(2020年)10月30日

国立市立国立第二小学校

校長 小林 理人

にしょうのあしたにたねをまこう

校長 小林 理人

「笑い泣いて過ごした場所 二小の芝生で駆け回る 桜 二松 プラタナス 二小のシンボルだ」

10月のある日の出来事です。すっかり秋めいた校庭で元気に駆け回る子供たちの様子を校長室から見てみると、3階の教室から歌声が聞こえてきました。

5年生がつくったパプリカの替え歌です。開校記念日に予定されている集会に向けて「にしょうのあしたにたねをまこう！」プロジェクト実行委員の子供たちが中心となってつくった歌です。その歌詞からは、二小らしさと70周年を祝う子供たちの気持ちが伝わってきました。

隣の1年生の教室からはパプリカの音楽が聞こえてきました。教室を覗いてみると大型テレビを見ながら、楽しそうに踊る子供たちの姿がありました。

そして、他の教室の様子を見ながら体育館に行くと、6年生が開校記念日の集会で披露する二松ソーランを練習していました。その真剣な姿からは、二小の伝統のソーラン節に取り組む熱意と、1年生から憧れてきたソーラン節を踊る喜びを感じました。

例年は運動会などの学校行事が学校生活の中心となる2学期ですが、これまでできたことが今年ではできません。そして、今後のコロナウィルスとの共存を考えると、これまでのやり方を見直す時に来ているのかもしれません。「にしょうのあした創り」の始まりです。

5年生からの提案

前にも紹介した「にしょうのあしたにたねをまこう！」プロジェクトは、来年度のリーダーである5年生を中心に実行委員を組織し、準備を始めています。

5年生担任の呼びかけで立候補した25人が実行委員となり計画し、総合的な学習の時間(二松タイム)に5年生全員で替え歌の歌詞やダンスを教える段取り等を考えました。

そして、テレビ放送で行った全校朝会で実行委員会の代表が次のように呼びかけました。

私たち5年生は、校舎の建て替えにより、なくなってしまう二小の風景を未来の二小に残したいと思い、このプロジェクトを考えました。

私たちは二小オリジナルパプリカをつくりました。二小のみんなでオリジナルパプリカを歌いながら二小の思い出の場所で踊ります。その映像を未来の二小生に贈ります。

開校記念集会では、二小らしさを感じながら芝生の上で踊ります。みんなで二小の明日に種をまきましょう。

校外学習スタート

10月は感染予防対策を行いながら校外学習をスタートしました。2年生は保護者の皆様のご協力を得て、地域の施設やお店の見学を進めています。3年生は矢川たんけんで矢川の自然の中で、友達と一緒に活動することの喜びや体験学習の楽しさを満喫しました。4年生は谷保天満宮を見学し、伝統の獅子舞で使う獅子頭の実物を見せていただきました。本物の迫力と伝統の重さを感じる社会科見学となりました。これまでとは違う校外学習ですが、保護者や地域の皆様のお力をお借りすることで活動場所や方法を工夫し、実物や本物に直接かかわる楽しさを味わうことが出来ました。

「にしょうのあした創り」が始まりました。未来の主人公である子供たちがコロナ禍の不安やネガティブな雰囲気を変えようとしています。

そして、12月1日に予定されている開校記念日の集会では、歌や踊りにそれぞれの思いを込めて、二小を大切に想う全ての人の心に、明日の種を届けます。

「会いに行くよ 二松をぬけて 歌を歌って 手にはいっぱい 感謝抱えて ありがとう」